

(案)

JRローカル線の利用促進の取組

令和5年2月

兵庫県 JRローカル線 維持・利用促進検討協議会

はじめに

令和4年4月、JR西日本の路線のうち経営状況が厳しいローカル線の情報開示が行われた。兵庫県内では、山陰線（城崎温泉～浜坂、浜坂～鳥取）、加古川線（西脇市～谷川）、姫新線（播磨新宮～上月、上月～津山）、播但線（和田山～寺前）の4路線6区間がその対象となり、沿線地域から不安の声や路線廃止に反対する声などが挙がった。

JRローカル線は、通勤、通学、通院、買い物など県民の暮らしに欠かせない社会基盤である。また、観光など交流人口の拡大においても、さらに災害時におけるリダンダンシーを確保するためにも必要不可欠である。

このため県では、市町、JR、観光・交通事業者、有識者の参画を得て、「JRローカル線維持・利用促進検討協議会」を立ち上げるとともに、その下に路線ごとの4つのワーキングチームを設置した。そして、JRローカル線の利用促進を図り、いかに活性化していくかという視点で検討を重ね、このたび一定の取組方向を取りまとめた。

人口減少が進む中、地域交通の維持・活性化は決して容易に解決できる課題ではない。だからこそ、幅広い関係者が連携し、地域住民も巻き込んで、アイデアを出し合いながら取り組まなければならない。今回の取りまとめを一つの契機として、JRローカル線の活性化に一層力を注いでいく。

目 次

- 1 JRローカル線の必要性
- 2 これまでの利用促進の取組
- 3 今後の利用促進の取組
 - (1) 取組方針
 - (2) 各路線の利用促進の取組
 - (3) 全県的な利用促進の取組

1 JRローカル線の必要性

JRローカル線の必要性

JRローカル線は、次の観点から必要不可欠な社会基盤である。

- ① 通勤、通学、通院、買い物など地域住民の暮らしに欠かせない
- ② 観光など交流人口の拡大においても必要不可欠
- ③ 災害時のリダンダンシー機能の確保

沿線の高校及び病院の状況【山陰線】



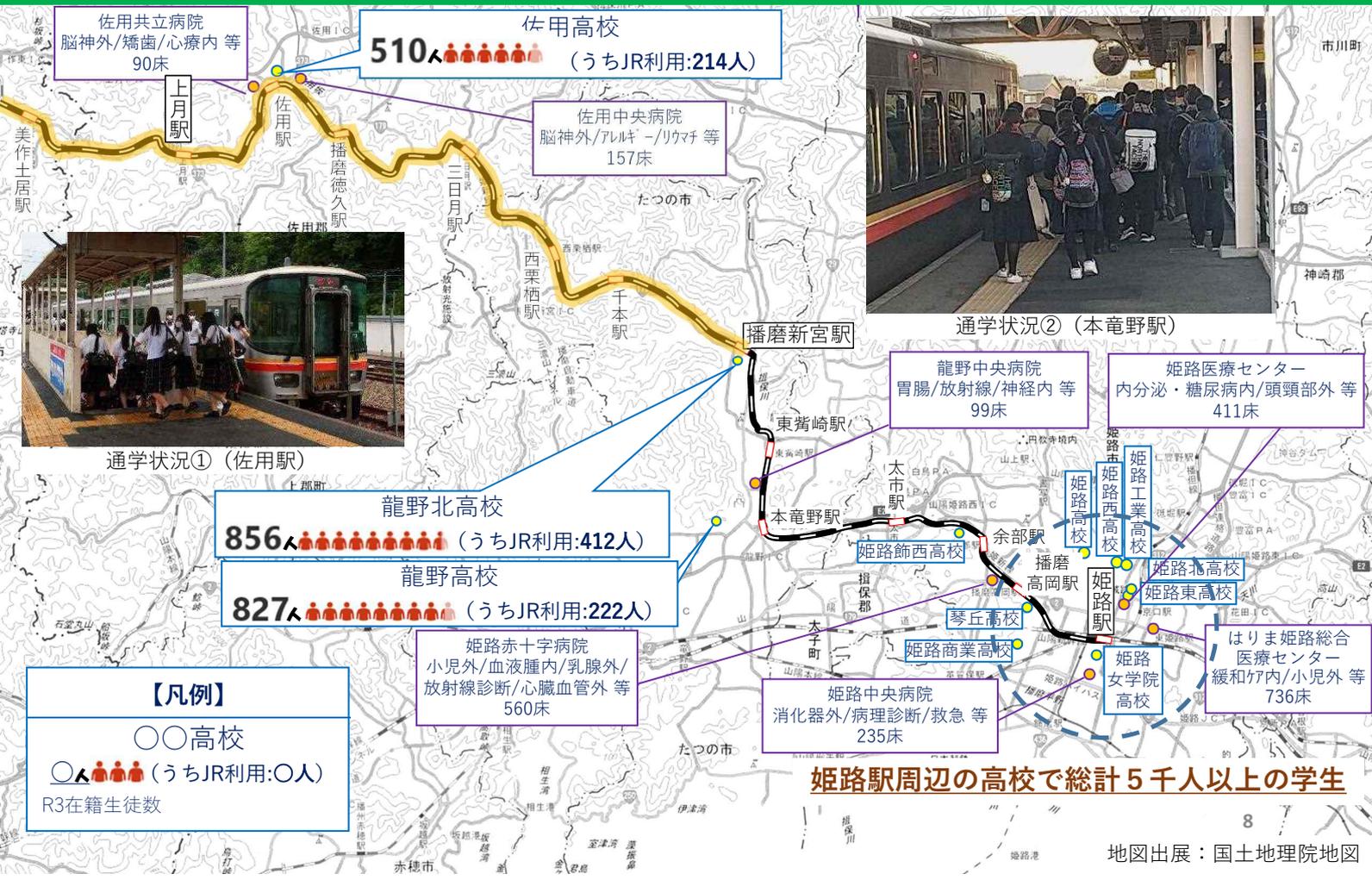
沿線の高校及び病院の状況【加古川線】



沿線の高校及び病院の状況【播但線】



沿線の高校及び病院の状況【姫新線】



通学状況① (佐用駅)



通学状況② (本竜野駅)

8

災害時のリダンダンシー機能

< 阪神・淡路大震災時に使用された迂回ルート >



2 これまでの利用促進の取組

これまでの利用促進の取組（加古川線）

○ 電化・高速化事業(H13～H16)

目的

新車両導入による速達性・快適性の向上、緊急時の輸送能力強化

効果

速達性の向上：**5分短縮**（加古川駅～谷川駅間）
JR西日本が多く保有する「電車」による緊急時の増便・増結が可能

（車両費）

JR 12億円	自治体 8億円 ※募金含 県：5億円 地元市町 ：3億円
------------	---

（地上設備費）

JR 18億円	自治体 27億円 〔 県：18億円 地元市町：9億円 〕
自治体 無利子貸付	



新車両

凡例
 事業区間
 複線区間
 （電化・高速化済）
 単線区間



その他の主な取組

〔凡例：●県実施、○市町実施〕

- 駅前広場整備：神野駅、厄神駅、市場駅、粟生駅、社町駅
- 駅舎整備：市場駅、小野町駅、粟生駅、河合西駅、青野ヶ原駅、社町駅、黒田庄駅
- 啓発活動：沿線ガイド・鉄道利用啓発カレンダー作成、車内鉄道絵画展
- イベント：車両基地見学会、駅起点のハイキング

これまでの利用促進の取組（山陰線）

○ 余部橋梁架替事業(H17~H22)

目的

余部橋梁における強風による運行制限(列車の遅延、運休)の軽減

効果

運休：架替前(H21) **年間114本** → 架替後(H23) **年間 6本** (風速運行制限 毎秒20m → 毎秒30m)

JR
6億円

自治体
24億円

兵庫県側：19億円*
鳥取県側：5億円

※ 県：13億円 地元市町6億円
(豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町)

その他の主な取組(山陰線)

[凡例：○市町実施、●県実施]

- 周辺施設整備：余部鉄橋「空の駅」、クリスタルタワー
- 駅前広場整備：豊岡駅、城崎温泉駅、香住駅
- 駅前駐車場整備：豊岡駅、八鹿駅、養父駅、香住駅
- 駅前駐輪場整備：八鹿駅、浜坂駅
- 二次交通：駅と観光地を結ぶバス「たじまわる」運行
- 助成制度：鉄道運賃助成[R4~](香美町)
鉄道利用者に対する駅前レンタサイクル利用料補助[H26~]
- 啓発活動：e通勤プロジェクト・ノーマイカーデー(豊岡市)



これまでの利用促進の取組（山陰線・播但線）

○ 輸送改善事業 (H21~H25)

目的

特急「はまかぜ」の新車両導入による速達性・快適性の向上

効果

速達性の向上：**12分短縮** (大阪駅~浜坂駅間)

(車両費)

(地上設備費)

JR
60億円

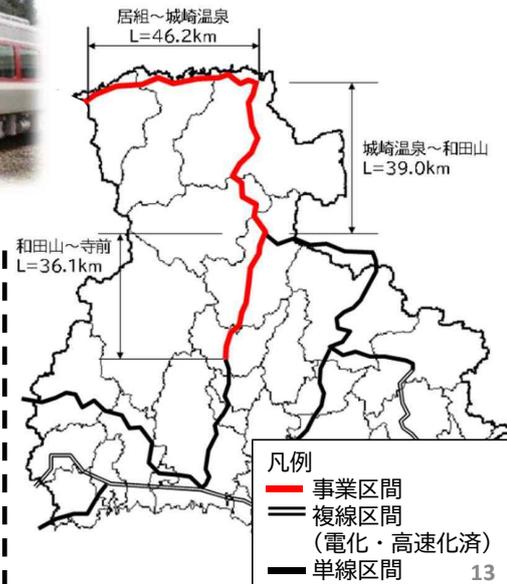
JR
2億円

自治体
7億円

県：5億円
地元市町：2億円



「はまかぜ」新車両



その他の主な取組(播但線)

[凡例：●県実施、○市町実施]

- 駅前広場整備：生野駅、和田山駅
- 駅前駐車場整備：生野駅、竹田駅、青倉駅、新井駅、和田山駅、長谷駅
- 駅前駐輪場整備：生野駅、青倉駅、新井駅
- 助成制度：播但線団体利用補助(R2~)(朝来市)
鉄道利用者に対する駅前レンタサイクル利用料補助(H26~)
- イベント：サイクルトレイン等 企画列車(朝来市、神河町 他)、
ウォーキングイベント(朝来市、神河町)

これまでの利用促進の取組（姫新線）

○ 輸送改善事業(H18~H21)

目的

新車両導入による速達性・快適性の向上

効果

速達性の向上：姫路駅～上月駅間 **9分短縮**

(車両費)

(地上設備費)

JR 34億円 自治体 無利子貸付	JR 10億円	自治体 35億円 県：23億円 地元市町：12億円
----------------------------	------------	------------------------------------



姫新線 新車両

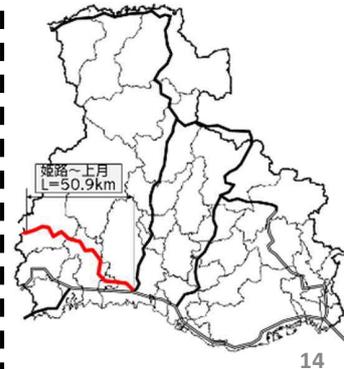
凡例

—	事業区間
≡	複線区間 (電化・高速化済)
—	単線区間

その他の主な取組

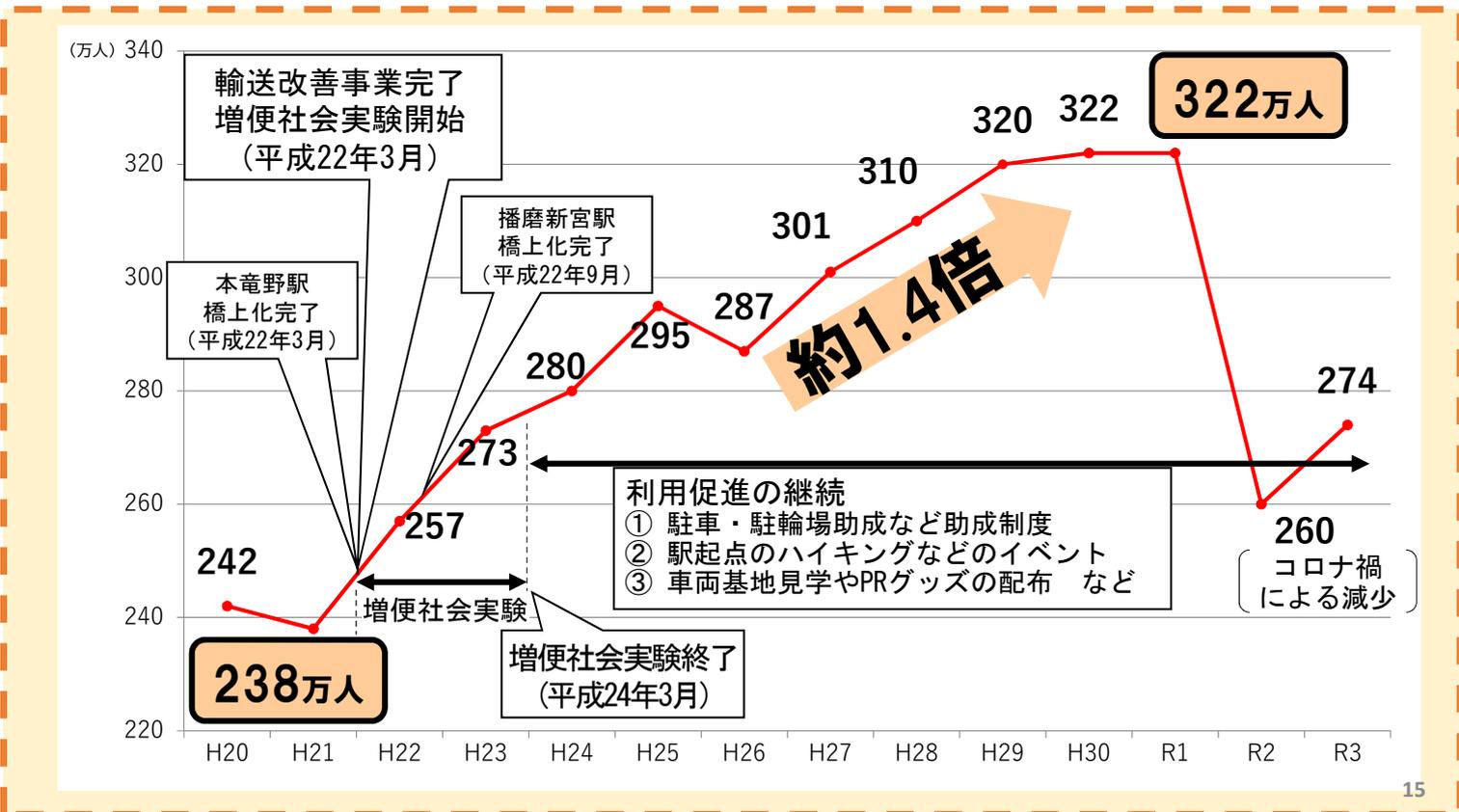
[凡例：●県実施、○市町実施]

- 増便社会実験(H22.3~H24.3)：増便による利用者増加の検証(県・市町協調)
- 駅の橋上化：本竜野駅、播磨新宮駅(たつの市)
- 駅舎整備：三日月駅・播磨徳久駅、上月駅(佐用町)
- 駅前駐車場整備：本竜野駅、播磨新宮駅、三日月駅、播磨徳久駅、佐用駅、上月駅
- 駅前駐輪場整備：本竜野駅、播磨新宮駅、播磨徳久駅、上月駅
- 助成制度：新規の通勤通学利用者に駐車(駐輪)料金を助成[H22~](たつの市)
大学生等の通学定期券購入助成[R4~]、5人以上のグループこ片道切符支給[H23~](佐用町)
- イベント：車両基地見学会、栗ひろい等の駅起点のハイキング、沿線スポット回遊イベント



これまでの利用促進の取組（姫新線）

○ 利用者数の推移



3 今後の利用促進の取組

(1) 取組方針

取組方針①

I 基本的な考え方

地域住民の日常生活や観光・交流による地域活性化に欠くことのできない**鉄路を維持**するため、沿線地域の実情・課題を踏まえ、官民連携で利用促進に取り組む

II 取組方針

(1) 路線ごとの取組

- **対象区間の駅ごと**に、利用者の状況、資産や遊休スペース、まちづくり活動に取り組む地域の団体や事業者等の情報を「**駅カルテ**」として整理し共有
- 「駅カルテ」等を踏まえ、関係者(県民局、市町、JR、交通・観光事業者等)が、**①日常利用の促進、②観光需要の拡大、③まちづくりと一体となった魅力創出の3つの柱で利用促進の取組を推進**

駅カルテ作成

路線ごとの取組

①日常利用の促進	沿線住民等の マイレール意識を醸成 するとともに、 マイカーから鉄道利用への転換を促進
②観光需要の拡大	地域資源の掘り起こし・磨き上げ、二次交通との連携などにより、 インバウンドを含めた沿線の観光需要を拡大
③まちづくりと一体となった魅力創出	地域住民や事業者等による駅周辺の活性化など、 地域の個性を活かした取組により関係人口等を拡大

18

取組方針②

II 取組方針

(2) 全県的な取組

- **全県的な観光キャンペーンの展開や新たな仕組みの導入検討など、官民連携で沿線地域の取組を後押し**
- **国に対し、JR赤字路線への支援制度の創設、鉄道路線を維持活性化する取組への支援などを要望**



R4.6.24 第1回検討協議会



R4.9.28 JR加古川線 電車でミーティング(加古川線WT)

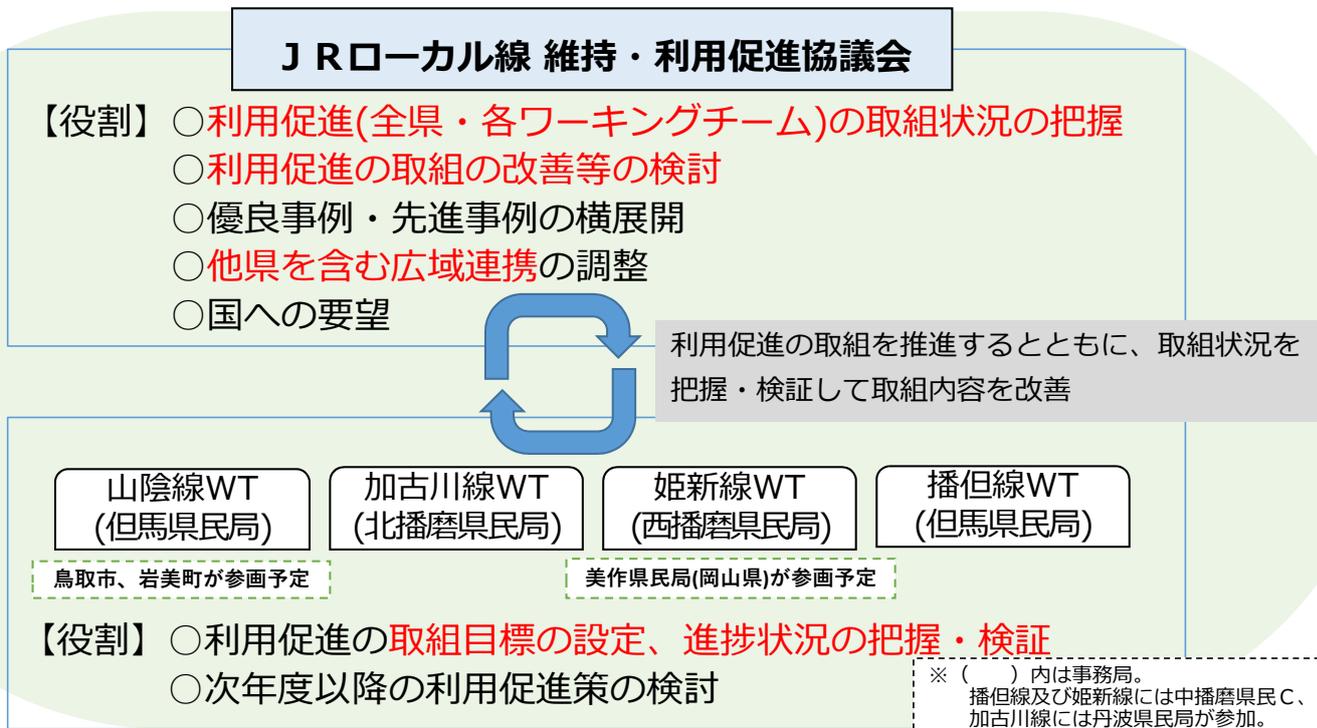


19

Ⅲ 推進体制

○ 検討協議会・各路線ワーキングチーム

- 「JRローカル線 維持・利用促進協議会」（現在の「JRローカル線 維持・利用促進検討協議会」を改称）及び各路線のワーキングチームの体制を継続



(2) 各路線の利用促進の取組

現状・課題(路線の特性)

- 豊富な観光資源を有しながら、遠方からの列車による来訪者が極めて僅少である
- 運行頻度が低く、列車を積極的に選択する要因に乏しい
- 異なる交通事業者との連携が不足している
- 今後も人口減少が見込まれる中、沿線地域の努力のみでJRローカル線の維持は厳しい

利用促進策の方向性

利用促進策として次の5つの項目に取組む。これらを進めるにあたっては、WTを継続するとともに、鳥取市、岩美町との連携を強化し、取組ごとの役割分担等の詳細を検討・協議する。また、具体化する取組についてはPDCAサイクルを回しながら、その実効性を高め、国に対して山陰本線の維持・活性化への積極的な関与を求めていく。加えて、但馬地域全体の総合的な交通利便性の向上に向け、交通連合の設立等を視野に、交通事業の運営のあり方についても議論を進める。

- (1) 公共交通の利便性向上等、観光地へのアクセス改善に向けた取組の推進
- (2) 兵庫DCや大阪・関西万博を契機とした観光利用者数の増加に向けた取組の推進
- (3) 駅周辺整備による利用者数の増加に向けた取組の推進
- (4) 外国人や移住者、学生など日常利用における利便性向上策の検討及び実施
- (5) 地域の発展にも繋がる地域公共交通体系の構築

利用促進策

(1) 公共交通の利便性向上等、観光地へのアクセス改善に向けた取組の推進

- ・キャッシュレス決済/ ICカードの導入/ IC導入駅の拡大【共通】
- ・新型車両の導入（高速化・直通化・水素車両等）

22

(2) 兵庫DCや大阪・関西万博を契機とした観光利用者数の増加に向けた取組の推進

- ・WESTERへの情報集約【共通】、地域の魅力発信
- ・演劇列車や謎解き列車等
- ・マーケティングリサーチの実施
- ・周遊切符造成、レールパスの適用を拡大した商品設定

(3) 駅周辺整備による利用者数の増加に向けた取組の推進

- ・道路の舗装、駐車(輪)場の整備、駅の景観整備、バリアフリー化、ステーションイグラー
- ・列車内の活用（写真や絵画等の掲示）、キッチンカー誘致、芸術鑑賞
- ・駅への愛称付加

(4) 外国人や移住者、学生など日常利用における利便性向上策の検討及び実施

- ・定期券や特急券の購入補助、列車利用者補助
- ・学生へのチケットレス特急券利用の周知
- ・駅活性化事業補助（地域団体の取組支援）
- ・住民の列車利用への意識醸成
（列車利用を想定した会議・イベント開催、公共交通をみんなで守る意識啓発等）
- ・列車やバスの体験乗車の実施 ・ジオトレイルと連携したJRハイキング
- ・学生との意見交流会や住民調査の実施

(5) 地域の発展にも繋がる地域公共交通体系の構築

- ・列車とバスの相互利用、レールパスの適用拡大に向けた検討
- ・二次交通の充実（デマンド型タクシーの実証運行、デマンドバス、駅前以外への拡充）

23

現状・課題(路線の特性)

- 運行本数、他線との接続、住民主体となったサービス面等の利便性に欠ける
- 二次交通や観光コンテンツとのリンクが脆弱
- 駅の簡素化の進展(久下村、比延、本黒田駅等)
- 災害時リダンダンシー機能確保のための電化(全線電化は加古川線のみ)
- 沿線企業の不在・地域住民の鉄道への関心が希薄

利用促進策の方向性

- (1) 日常利用の促進: 利用者のサービス向上による新たな価値の創出
- (2) 観光需要の増進: ICTの活用やイベント等による利用のきっかけ創出
- (3) まちづくりと一体となった魅力創出: 地域活動家・住民との連携による駅周辺の活性化

利用促進策

(1)日常利用の促進・(2)観光需要の増進

●利用補助等

- ・通勤・通学者への定期券購入補助
- ・運賃無料日(鉄道〇〇記念日)の設定
- ・駅周辺の駐車場利用の助成

●環境整備

- ・ICOCA等ICカード精算システムの導入【共通】
- ・トイレ、待合スペース等の整備促進
- ・列車の利便性向上(貨客混載、他線との乗入れ、加古川-谷川駅直通の増便)



【写真はサイクルトレインイメージ】
ちちてつサイクルトレイン(埼玉県HPより)

24

●二次交通

- ・通学自転車等を乗せるサイクルトレインの運行
- ・パーク&ライド、キス&ライドの推進
- ・自転車駐輪場の整備支援
- ・地域と駅を結ぶ移動手段の強化(デマンド交通、ループバス等)
- ・駅リンクくん(レンタサイクル)の導入

●イベント・コンテンツ等

- ・駅舎等を活用したARスタンプラリーの実施
- ・体験コンテンツ(恐竜化石の発掘、毛針作り、四季巡り等)の商品化
- ・古民家アトリエを活用したインバウンド誘客等

●情報発信

- ・高校生によるSNSを活用した情報発信
- ・JR西アプリ「WESTER」を活用した沿線情報の集約・発信【共通】

●その他

- ・利用促進キャンペーンの実施
- ・ダイヤに合わせた始業・就業の実施

(3)まちづくりと一体となった魅力創出

- ・民間企業等との連携による空間の有効利用(市民農園・サウナ・グランピング等)
- ・利用促進運動のための地域住民によるサポーターの立ち上げ
- ・駅・周辺の活性化に向けた地域の活動家(高校活動等を含む)との連携、ネットワーク化(朝市、フワガーデン、遊休地や交流施設の活用、芸術大学等と連携した芸術作品展示等)
- ・駅舎へのこどもたちの遊び場(おえかきコーナー等)の設置によるにぎわいづくり



【写真は上越線土合駅のグランピング】

(4)その他

- ・地場産品を活用した列車の装飾(播州織ヘッドカバー等)
- ・鉄道を活用したこどもイベントの実施(保育園等の遠足、小学生の社会見学)
- ・停車中の列車の活用(会議、子ども食堂、地域の若者達によるイベント実施)

※取組みについては兵庫DC、大阪・関西万博も見据えて検討を行った

※利用促進策の実施にあたってはふるさと納税・クラウドファンディング等の活用も検討

25

現状・課題(路線の特性)

- マイカー利用が多い地域性の中での姫新線の日常利用・観光利用の促進が課題
- 姫新線への理解の促進と愛着（マイレール意識）の醸成が必要
- 隣接する岡山県でも姫新線WTが発足、両県の連携した取組が必要

利用促進策の方向性

- (1) 日常利用の促進：駅環境や二次交通の充実等の利便性向上
- (2) 観光需要の増進：観光コンテンツ発掘・改良やイベント等による利用促進
- (3) まちづくりと一体となった魅力創出：社会活動家等と連携した沿線地域活性化の取組

利用促進策

(1)日常利用の促進・(2)観光需要の増進

●利用補助等

- ・ 通学利用助成(大学生等)の適用年齢の拡大(22才まで→25才まで) 等
- ・ 団体利用助成(片道切符支給)の適用人数の引下げ(5名以上→2名以上) 等

●環境整備

- ・ I C O C A (車載型IC改札機等)の導入【共通】
- ・ 佐用駅や播磨新宮駅での乗換えの改善(直通化・増便等)
- ・ 駅舎へのWi-Fi設置、雨よけ屋根の設置

●二次交通

- ・ コミュニティバス、デマンドタクシー等二次交通の充実 ・ シェアサイクルの導入

26

●イベント・コンテンツ等

- ・ 「酒・グルメ」等をテーマとしたイベントの実施 ・ デジタルスタンプラリー、駅カードの作成
- ・ 岡山県と連携した観光交流事業の実施
- ・ 「姫新線+バス」ツアーの旅行プラン化及び定期運行 ※フィールドパビリウムとリンク
- ・ サイクルトレインを活用した自転車関連イベントの開催
- ・ 沿線の観光コンテンツの開発(西はりま天文台の活用等)
- ・ 姫路城など近隣主要観光スポットから西播磨地域への観光ルートの設定・広報

●情報発信

- ・ 「姫新線ファンクラブ」結成によるマイレール意識の醸成
- ・ 龍野北、佐用高校の生徒による利用促進ポスター等の作成・活用
- ・ 同盟会のホームページを親しみやすい内容へリニューアル
- ・ 姫新線を題材にした映像コンテストの実施(ドローン等)、優秀作品をHPに活用
- ・ 各団体による住民・企業への利用啓発は継続的に実施
- ・ デジタルマップ(沿線観光・グルメマップやサイクルマップ)等の作成
- ・ J R西アプリ「WESTER」を活用した沿線情報の集約・発信【共通】

(3)まちづくりと一体となった魅力創出

- ・ 地域を巻き込んだ駅周辺の「謎解きミステリーイベント」の開催
- ・ 「アップサイクルベンチ」作製・駅等への設置及びメンテナンスツアー・イベントの開催
- ・ 「わがまち自慢駅前マルシェ」の開催
- ・ ビジネスコンテストの実施(「姫新線関連部門」の設定)
- ・ 沿線地域活性化等に取り組む社会活動家や地元高校生等への活動支援
- ・ 社会活動家が実施する姫新線沿線イベントの連携(特典付きスタンプカード発行等)、社会活動家への姫新線応援企業による支援

27

現状・課題(路線の特性)

- 姫路市の至近距離にありながら、通勤通学等の日常活動における地理的優位性を生かし切れていない
- 速達性、快適性に課題があり、列車を積極的に選択する要因に乏しい
- 日常利用・観光利用を促す交通事業者の連携が不十分である
- 国土の骨格をなす重要路線でありながら、国の関与に乏しい

利用促進策の方向性

利用促進策として次の5つの項目に取組む。これらの取組を進めるにあたっては、WTを継続するとともに、寺前駅以南の市町との施策連携を図り、取組ごとの役割分担等の詳細を検討・協議する。また、具体化する取組についてはPDCAサイクルを回しながら、その実効性を高め、国に対して播但線の維持・活性化への積極的な関与を求めていく。

- (1) 幅広い世代の積極的な日常利用を促す取組の推進
- (2) 駅周辺の利活用やコミュニティの場の創出等、活性化方策の検討及び実施
- (3) 観光客の移動手段や観光PRなど利便性向上策の検討及び実施
- (4) 兵庫DCや大阪・関西万博を契機とした観光利用者数の増加に向けた取組の推進
- (5) 地域の発展にも繋がる地域公共交通体系の構築

利用促進策

(1) 幅広い世代の積極的な日常利用を促す取組の推進

- ・ 定期券・特急券の購入補助、列車利用者補助
- ・ 学生へのチケットレス特急券利用の周知
- ・ 駅活性化事業補助（地域団体の取組支援）

28

- ・ 住民の列車利用への意識醸成（列車利用を想定した会議・イベントの開催、公共交通をみんなで守る意識啓発等）
- ・ 親子で列車を学ぶイベントや体験乗車の実施
- ・ 列車利用での買い物ツアーやウォーキングツアーなどのイベント実施
- ・ 自然、歴史、文化を訪ねるハイキングツアーの実施
- ・ 住民調査の実施

(2) 駅周辺の利活用やコミュニティの場の創出等、活性化方策の検討及び実施

- ・ 駅周辺の再開発
- ・ 道路の舗装や駐車場整備など駅周辺の環境整備
- ・ 駅舎の装飾や作品展示
- ・ キッチンカーを集めた駅前の賑わいづくりなどイベント開催

(3) 観光客の移動手段や観光PRなど利便性向上策の検討及び実施

- ・ キャッシュレス決済/ ICカードの導入/ IC導入駅の拡大【共通】
- ・ 車内等での外国語アナウンス
- ・ 新型車両の導入（高速化・直通化・水素車両等）

(4) 兵庫DCや大阪・関西万博を契機とした観光利用者数の増加に向けた取組の推進

- ・ WESTERへの情報集約【共通】
- ・ レンタサイクルを利用したインバウンド向けツアーの実施
- ・ 駅ごとの企画など地域の魅力再発見リレーイベント開催

(5) 地域の発展にも繋がる地域公共交通体系の構築

- ・ 列車とバスの相互利用、レールパスの適用拡大に向けた検討
- ・ 二次交通の充実(コミュニティバス等の見直し、シェアサイクル、トゥクタク等の導入)

29

(3) 全県的な利用促進の取組

① マイレール意識の醸成（ありがとう運動の展開等）

1 目的

路線を支え、守る活動を行っている団体等と連携し、ローカル線利用者に対し『ありがとう』を伝える運動を展開することで、ローカル線への愛着や、自身が支えているというマイレール意識を醸成する。

2 実施内容

ローカル線の利用促進に取り組む沿線の中・高等学校のほか、住民サポーター、ファンクラブ等と連携し、次のような取組を展開

＜取組例＞

- ・「ありがとう」ポスターの作成及び列車内・駅への掲示
- ・放送部等の生徒による録音メッセージの車内アナウンス
- ・ロゴマークやグッズなどの作成(デザインの提案等)

※定期券購入者や、鉄道を利用する従業員の多い企業が、名刺や広報等で使用



【参考】姫新線沿線の高校生が製作したポスター(路線図)

②兵庫デスティネーションキャンペーンの展開

1 目的

ローカル（地域性）を追求し、地域に根差した「食」や「文化」を味わい、そのルーツや歴史を合わせて楽しむとともに、受け継いできた人の想いや技術の魅力等を感じる『兵庫デロワール旅』をテーマに、JRグループ6社と地域が一体となって全国規模の観光キャンペーン「兵庫デスティネーションキャンペーン(R5.7月～9月)」を展開。

県外・国外からの観光客を個性豊かな魅力を有する兵庫五国に誘うとともに、デロワール旅を核とした「Hyogoブランド」を確立し、持続可能な観光地づくりに取り組むことにより、JRローカル線の利用促進につなげていく。

2 実施内容

- ① 県内各地の地域資源の掘り起こし・磨き上げ、体験コンテンツの造成
- ② 拠点駅と観光地をつなぐ二次交通の充実
- ③ ブランディング及びJRとの協力等によるプロモーション
- ④ 兵庫プレDCの成果を踏まえた特別観光列車の運行の検討 等

※兵庫DCの期間中にローカル線で接続する岡山県(姫新線)、鳥取県(山陰線)と連携した利用促進の取組も検討



プレDCで運行した特別観光列車

32

③ひょうごフィールドパビリオンの展開

1 目的

2025年大阪・関西万博に合わせて、地域のSDGsを体現する活動の現場そのもの(フィールド)をパビリオンに見立て、地域の人々が主体となって発信することで、国内外の多くの人を誘い、見て、学び、体験していただく「ひょうごフィールドパビリオン」を展開し、JRローカル線の利用促進につなげていく。

2 実施内容

- ① フィールドパビリオンの募集・認定、プレミア・プログラムの選定
- ② 誘客プログラムの魅力向上をサポート
- ③ 国内外へのプロモーション、情報発信
- ④ アクセス利便性の向上
- ⑤ 五国周遊促進策の検討、現地発着型ツアーの造成 等

ひょうごフィールドパビリオン

●地域で取り組むプレイヤーが発信する「体験・対話の場」

[兵庫が取り組んできたテーマ例]

震災復興/地場産業/農林水産業

健康と食/芸術文化/まちづくり



●既存施設を活かした魅力発信の拠点づくり

●兵庫デスティネーションキャンペーンにおける試行

万博会場から五国各地のフィールドパビリオンへの人の流れの創出

アクセス利便性の向上
五国周遊促進策の検討
現地発着型のツアー造成 等

関西広域連合パビリオン「兵庫棟」

●関西広域連合パビリオンに参画し、関西一体で魅力を発信

●県独自の展示スペース「兵庫棟」(仮称)を出展し、来場者が兵庫へ向かうきっかけを創出

●仮想体験や現地とのリアルタイム交流等を通じ、フィールドパビリオンの情報発信

●グルメ、癒やし、絶景等、兵庫五国の観光地としての魅力を発信



33

④ 駅周辺活性化モデル事業

1 目的

J Rローカル線の駅舎や駅周辺の遊休不動産等を活用し、**駅周辺に人の流れや賑わいを生み出す地域主体の活動（事業者、地域団体等の取組）**を支援することにより、ローカル線の利用者拡大を図る。

2 実施内容

駅周辺活性化の取組を**一定期間継続的**に行う事業者や地域団体等に対し、**県・沿線市町が協調**して支援を実施。

- 定額補助（**県：市町 = 1：1**で負担）、**1路線3件程度**
- 事業者・地域団体等が、遊休不動産等を**無償（実費のみ）**で使用できるよう、関係者（県・市・JR）で調整

3 対象事業（例）

- 駅舎の空きスペースを利用したカフェやサービス提供
- 空き家の廃材等を活用したベンチの製作・設置・管理活動（アップサイクルベンチ）
- 自治会や地域の学校と連携した駅周辺での賑わいづくり

※駅の交流施設や駐輪場などの周辺整備等は、ふるさと納税やクラウドファンディングによる財源調達を検討

駅の交流施設等の整備事例



34

⑤ サイクルトレイン・キャッシュレス決済導入検討

1 目的

利便性向上によりローカル線の利用者増加を図るため、学生等の日常利用や観光での利用が見込まれるサイクルトレインや、対象路線で未整備となっているキャッシュレス決済の導入に向け、調査・検討を実施する。

2 実施内容

- ① 全国の事例の調査・分析
- ② 対象路線の導入時の課題・効果の分析
- ③ 導入時の概算費用の算出



『画像提供：埼玉県「ちちてつサイクルトレイン」』



『画像提供：WILLER TRAINS（京都丹後鉄道）』



『画像提供：JR西日本「簡易型自動改札機」』

35

(参考)令和5年度の県・市町の主な取組① ※

区 分		取 組 内 容
全県的な取組		<ul style="list-style-type: none"> ○マイレール意識の醸成（ありがとう運動の展開等） ○兵庫デスティネーションキャンペーンの展開 ○ひょうごフィールドパビリオンの展開 ○駅周辺活性化モデル事業（県・市協調） ○サイクルトレイン・キャッシュレス決済導入検討
WTの取組	県民局	<p><日常利用の促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○鉄道を中心とした地域おこしのための「わが町考え隊(仮称)」の発足【加古川線】 ○「姫新線ファンクラブ」結成によるマイレール意識の醸成【姫新線】 ○スマート通勤期間を設定し、鉄道を利用した通期・通学・出張等での利用を呼びかける「利用促進キャンペーン」の実施【加古川線】 <p><観光需要の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ○夢但馬周遊バス「たじまわる」の運行支援、交通事業者への補助による二次交通の充実【山陰線・播但線】 ○京阪神等からの鉄道利用者に対するレンタサイクル利用補助【山陰線・播但線】 ○駅周辺を散策する途中下車ウォーキングイベントの実施【山陰線・播但線】 ○鉄道と沿線の地域資源を結び、AR(Augmented Reality: 拡張現実)スタンプラリーの実施【加古川線】 <p><まちづくりと一体となった魅力創出></p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅舎へのこどもたちの遊び場(おえかきコーナー等)の設置による賑わいづくり【加古川線】

36

(参考)令和5年度の県・市町の主な取組② ※

区 分		取 組 内 容
	県民局	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○鉄道啓発カレンダーの作成や沿線ガイド季刊誌の発行(電子書籍化)【加古川線】 ○鉄道と自転車の一体的利用を促進する県産木材製サイクルスタンドの駅への設置【姫新線】 ○車両基地見学会の開催による鉄道の魅力発信【山陰線・加古川線】 ○沿線の園児・児童を対象とした列車内絵画展の実施【加古川線】
WTの取組	市 町	<p><日常利用の促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○通勤、通学での鉄道利用への補助（定期券購入等）【各線】 ○駅駐車場・駐輪場の利用への補助、パーク&ライド駐車場の確保【姫新線・播但線】 <p><観光需要の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特急利用や列車の往復利用、団体利用等に対する補助【各線】 ○列車の発着時間、本数等を考慮した、沿線の観光資源を巡るハイキングや散策ツアーの実施、兵庫DCにあわせたツアー造成・PR【各線】 ○鉄道写真家の講演やフォトコンテストの実施【加古川線・播但線】 <p><まちづくりと一体となった魅力創出></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゆるキャラをデザインしたカラーマンホールの駅前への設置【播但線】

※ 予算措置を伴うもの。なお、予算は県・市町の議会の議決(3月中旬～下旬)をもって確定。